

# 情報教育

押野正憲 山岸朋子 牧山あや  
山岸郁生 戸田真実 谷本克典  
齋官重治 八崎和美 今井直人

## 1 本校の情報教育のとらえ方

昨年度の研究では、情報教育のねらいと教科のねらいがどの部分で連動しているかが課題となった。それは下記のような要因が考えられた。

①情報活用の実践力を、ある教科のある単元というせまい枠内で想定し実践研究してきたが、もう少し大きな範囲で、教科を横断する資質・能力ととらえ、一つの教科・単元での学びを他教科や総合学習に生かす方策を探る必要性があったこと。

②IT機器の利用では、相手意識、目的意識をはっきりさせなかったため、利用するスキルそのものが目的となり、活動主義になりがちであったこと。そこで今年度は次の3点を大切に実践を重ねていきたいと考えた。

・「情報活用の実践力を培う」という情報教育の目標はそのままに、「情報活用の実践力」を教科横断的な資質・能力としてとらえる。

・その力はそれぞれの教科の学習活動である（「調べる・まとめる・伝えあう」）活動の一連の活動の中で育てていく。つまり、情報活用能力は特別なものではなくて、各教科の中に存在するものと考えられる。

・その能力をそれぞれの教科でバラバラで育てるのではなくて、教師が意識して各教科をつなげていくことが大切であると考えられる。

このような発想でカリキュラムづくりをしていくことが、情報活用の実践力を育てることになり、さらに教科のねらいを達成することにつながると考える。以上のようにして情報教育のねらいと教科のねらいが連動するようにした。

また、情報活用能力は「調べる・まとめる・伝えあう」一連の活動の中で育てられるが、育てられる能力と活動は有機的・複線的にかかわっており、どの活動でどの能力が育まれるとはっきり規定されるものではない。とはいえ、重点的にその活動で育てたい能力は存在すると考える。以下はその内容である。

＜調べる活動＞

○文字・音声・静止画・動画等に込められた作成者のメッセージを読み取り、集めること

→情報を収集し、読み取る力

＜まとめる活動＞

○自分で収集した情報を取捨選択し、編集・加工して、新たな情報として再構築することなど。

→情報を新たに構造化する力

＜伝え合う力活動＞

○再構築した情報を交流しあい、新しい視点を得たり、考えを深めたりすること表現、発信すること。

→情報を表現し、交流する力

これらの活動に焦点をあてて授業を構成すれば各教科、総合学習の中で情報活用の実践力を一層伸ばしていくことができると考える。

例えば、「調べる・まとめる・伝えあう」という活動は総合でも国語科でも社会科でも行われる。一連の情報にかかわる活動を各教科横断的に相互関連させて配置する。国語の「問い合わせの手紙」で学習した内容を、総合の「関係機関に問い合わせる」活動で、目的と相手に合わせて実践的に生かしていく。このような関連する活動を組み合わせてカリキュラムを作ること、指導者が意識して設計していくことが必要である。

## 2 情報教育における集団で学ぶよさ

集団で学ぶよさは「伝えあう」活動で大いに発揮されるだろう。情報活用の実践力は他者とのコミュニケーションを意識した活動の中で育まれ、また他者への伝達手段という必要感に支えられた活動の中で有効に機能する。そこで見方、考え方を共有し、新しい視点を得たり、考えを深めたりすることができる。ここに情報教育における集団で学ぶよさがあると考えられる。

しかし、それが可能になるためには、「調べる・まとめる」活動から相手意識、目的意識をしっかりと持つことが大切である。例えば、社会科の学習で「貿易の自由化賛成・反対」のディベート学習を行うとする。その場合、学級討論会を「伝えあう」活動と位置付ける。相手を納得させるためには相手がどのような論点に立っているのかを明らかにしなければならない。そのためには相手と自分の論との類似点、相違点を知ること、などの事柄が必要になる。自分の論をたてるための情報の収集の仕方も自分と反対の考えを意識して情報を集めることでひとりよがりの調査活動に陥らない。そこには相手を意識し、目的を意識した学習が成立する。

このように各教科における情報活用の実践力は、集団で学ぶことによって活性化され、つながり合い、よりよい学びを支えていく。

### 3 集団で学ぶよさが息づく

#### 授業へのアプローチ

集団で学ぶ良さを息づかせるためには、伝えあう活動が重要であると考えて次のような手立てを考えていく。

#### (1) 学びのシェアとのかかわりから

「伝えあう」活動の中で十分に学びをシェアできるようにそれまでの「調べる」「まとめる」活動を構成する。特に、双方向に「伝え合う場」を設けることで、見方、考え方を共有し、新しい視点を得たり、考えを深めたりすることができ、個々の考えの再構築を促すことができる。

調べる活動では、一人一人が情報に働きかけることを促す。教師は、十分に活動できたり、共同作業ができたりするような学習環境を整える。授業においては、相手を意識し、必要感をもって情報手段を活用する活動となるように単元の展開を工夫する。

まとめる活動では、情報を編集・加工して自ら表現することを促す。相手を意識した表現となるためには、目的に応じた多様な表現方法を知る必要がある。それが、一番適切な方法を選ぶことにつながる。

例えば相手に直接話をするというのが一番ふさわしいこともある。また、模造紙に大きくかき表し、廊下に掲示することもあるだろう。クラスで調べた結果をまとめ、ホームページの形にして発信することもある。このように、相手と目的に応じた表現方法を計画的に学習していく場を設定していく。

以上の二つを受けて「伝えあう」活動を設定する。そこでは、自分なりに構造化した情報を相手の立場を考えて発信し、伝え合うことで、新たな見方、考え方を獲得し、自分の学びをさらに見つめ直すことができる。こうした発信→交流→内省→発信…のサイクルを通して、自信の学びが深めることができる。

そのために、次のような交流学習も視野に入れている。個や集団で生成された情報が学級内という枠組みから学校内へ、そして他校との交流、さらに国内外へと情報交換の枠が広がるにつれて、たくさんの人と交流することができる。多様な価値観に触れることができる。それが自分の考えを見つめ直すことにつながる。その広がった対象と情報や意見交換をすることで、新しい価値観を得ることや、自分を見つめ直し、自分を変容することを自覚する楽しさが、さらなる情報発信に活かそうとする意欲となると考える。このような手立てを講じることが学びを十分にシェアすることにつながる。

また、その新しい考えは人と交流することで得られたものであることを自覚し、よりよい「伝え合う」活動を自ら設定していく態度、能力を育てたい。

#### (2) 規範について

教室での規範と情報教育は相互にかかわり合っている。それは、情報教育でめざす情報活用の実践力が、特定の教科の学びだけではなく、全ての学びにおいて作用するものだからである。

例えば、国語科の「学級討論会をしよう」では、教室の規範を

- ・具体的な事実を自分の主張に生かそうとする
- ・自分の考えとの違いの良さを認める

ととらえる。教室の規範意識を育てるために次のような手立てを講じていく。

具体的な事実を取材活動を行うことによって集める。例えば、アンケートやインタビュー、インターネットでの統計資料を探す等。その結果をフリップ、グラフ、表を使い、自分の主張に生かすような文章構成、提示の仕方を工夫してまとめる。さらに、プレゼンテーションをして伝え合うことで、情報活用の実践力をも高めていく。

それとともに、このような活動の中では、子どもが自分と違う相手の工夫点を認め、そのよさを感じ、自分の学びにいかしていこうと意識することが規範意識を育てることにつながる。そのためには、規範が意識された子どもの姿を認め、学級内に広めていくような教師のかかわり方が重要になる。

このように、情報に視点を当てた国語の授業を展開していくことで、教室の規範を育てていく。また、そうした規範意識が作用することが、情報活用の実践力も互いに高めることにつながる。

#### (3) 評価について

子どもが情報活用の実践力を意識しているかどうかを、子どもに自覚させるために、その方法として自己評価活動を考える。

今年度は教科の中で情報活用の実践力を培うため、それぞれの教科や総合学習の観点でのふりかえりに情報にかかわる観点を加味しておく。その観点は、各教科での「調べる」「まとめる」「伝え合う」ことにかかわることになる。

また、教室の規範にかかわるであろう観点も取り入れていく。例えば、昨年度の研究の成果でもあった「お互いに助け合い活動を進める姿」は、大切にして継続していきたい姿である。そこで、子ども相互でよさを認め合う観点も必要である。さらに、子どもの自己評価カードの記述の内容を教室全体に広めていくことで、学び方のよさや、他者を認める意識や、自分の成長を自覚することを促していく。

さらに、子どもの学びと変容を自己評価カードだけではなく、子どもの姿から見取り、継続的に検証していくことで、次の指導や単元設計に生かしていきたいと考える。

### 3 実践例 ー6年ー

4月。子ども達は最初の日から元気で意欲的に活動する場面が見られた。自分の意見をはっきり言える子も多い。気になったのは、友達の意見にあまり耳を傾けないことである。また、はっきりした証拠や根拠もなく思い込みで話している場合が多いことも気になった。そこで、相手のことを思いやった反応をする、価値観の違いを教室全体で共有する授業を構成していきたいと考えた。

自分の意見を伝える時は、確かな証拠や根拠を出して伝えることが、学びを分かち合い共有するために必要であると感じた。そのために、どの教科でも行われる「調べる・まとめる・伝え合う」の一連の活動の中で、自分の考えを補足・修正する資料を選択・判断し、その資料を自分の主張に生かすまとめ方、伝え方を子どもが意識して学習していけるような単元構成をしていきたいと考えた。

#### (1) 単元名 学級討論会をしよう

(2) 目標 ・話し手の立場と意見を考えながら、話の内容を聞くことができる。

- ・話の組み立てを工夫し目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すことができる。
- ・説得力のある発言にするために、調べた事実を効果的に使うことができる。
- ・自分の主張との違いを認め、そのよさを認めることができる。

#### (3) 国語科（情報教育）としての学びと教室の規範にかかわって

本教材は討論会での話題が決まった後、どのような準備をして討論会を開き、どのような手順で討論を進めていくかを扱っている教材である。ここでの話し合いは、学級会のように、生活の改善などをめざして、一つの決まりを作り上げることを行って行くものではない。一つのテーマに対して、自分の主張を、相手に分かりやすく例示したり、数値を提示したりしながら適切な表現方法を用いて話し合うことをねらいとしている。自分の言いたいことが相手に伝わったか、説得力のある話ができただか、相手の言い分を正確に聞き取れたか、それに対する反論を構築できたかということが各自の学習目標になる。

情報教育で培いたい「情報活用の実践力」は他者とのコミュニケーションを意識した活動の中でこそ育まれ、他者への伝達表現という必要感に支えられた活動の中でこそ有効に機能すると考える。ここに情報教育の授業における「集団で学ぶよさ」があると考えられる。本単元では、他者によりよく伝えられる手段として相手を説得する発言をすることを身につけさせる。つまり、相手を説得する発言を「具体的な例を調べ、まとめ、自己の主張と組み合わせる発言すること」ととらえる。その上で自分との違いを認め、そのよさを認めることが、情報教育としての学習目標になる。この単元での違いのよさを認めるとは、自分と違った取材方法や提示方法を知り、相手の主張を効果的に支えている部分に気づくことである。

本学級の子ども達は、友達の共感を得ることをいいたい気持ちや、人の前でうまく話したいという気持ちが強いと思われる。しかし、自分の意見を主張する意欲、技能に優れているが、相手の言うことを受け入れることが苦手である子ども達と、周りの人の目を気にかけたり、失敗を恐れたりする気持ちが強くなって自由に思いを語れない子ども達とに分かれている。この単元を通して、自分が発言をするだけでなく、相手にも理解してもらい、その上でお互いの良い点を取り入れてまとめていこうとする姿を願っている。また、「具体的な事実を自分の主張に生かそうとする」「自分の考えとの違いのよさを認める」という規範意識を育むことにつながると考える。

そこで、この単元では、あるテーマに対して肯定派、否定派、まとめる派の三つのグループの立場を経験することで、自分と相反する意見のよさを見つけられるような授業設計を行う。また、「説得力のある発言」とはどのような発言かを話し合い、自分の主張には具体例（事実や体験）を取り入れて文章構成をするとよいこと、そのためには取材活動を取り入れていく必要があること、発言の際には、フリップや実物などの提示が効果的であることをあわせて考えさせていきたい。

#### (4) 集団のよさが息づく授業へのアプローチ

##### ① 「学びのシェア」との関わりから

討論会では、参加者がそれぞれの立場で意見や考えを言ったり、聞いたりする中で、伝え合う力を育み、多様なものの考え方ができるようになる。つまり、自分の考えを発表できれば終わりのではなくて、互いに意見を対立させ、類似点、相違点を比べることや、相手の立場を考えて

いくことが、自分の考えをより深めることにつながるのである。このような内省→発信→交流→内省・・・のサイクルの中で、子ども達は学びを十分にシェアしていくことができる。

### ② 規範について

本単元では、「伝え合う活動」を学級討論会の場だけでなく、その時間に至るまでに同じ論の子ども同士の相談タイム、作戦タイムを設定する。また、肯定論グループだけでなく、否定論グループ、まとめるグループのそれぞれに立場をかえて主張する場を設けることで、互いの意見の違いを明らかにし、よさを認める子どもの規範意識を高めると考える。そのためにも、相手を説得する内容が必要になる。そのための調べ、取材活動を重視し、いかに生かして文章構成するかということに留意していきたい。また、この調べ、取材した結果を自分の主張に組み込んで、自分の考えを構築するという活動は他の教科のまとめ活動にも生かされる。

### ③ 評価について

討論メモ、討論カード、アドバイスカードを利用して自己評価活動を取り入れる。その視点として、自分達で討論会を進めることができたか（自ら進んで）、自分の言いたいことを具体的な事例を入れて構成できたか（目的意識）、相手の立場を考えた論が展開できたか（相手意識）を中心に評価させたい。また、これらの評価項目はこれからの情報教育の視点で教科・総合を見ていくことの基礎にあると考える。

### 単元計画（総時数 8 時間）

主な活動と内容	主に意識する規範	評価ポイント	情報	国語
1 討論会の準備や進め方について概略をつかみ討論会の準備をする				
①学級の中で、みんなの問題として話し合ってみたいことを挙げる	(1)			
②教材文「学級討論会をしよう」を読み 討論会の進め方について概略をつかむ ・どんな役割の人がいるのか 討論会のおおまかな流れはどうか		二つの意見を理解し 自分の考えと比べて感想を書く		
2 付録のCD「討論会をしよう」で参考になった点や今までの経験から話し合う				
①「学級文庫に漫画を置くのはよいか」について考えをシートにまとめる		討論会で参考になった点や今までの経験から話し合う		
②討論会が始まるまでの段取りを確認する 討論会をするねらい 肯定否定双方が考える理由 役割分担				
・同じ主張の人同士でグループを作る（肯定、否定グループ） (1)				
・両グループとも司会を決め どのような主張をしていくかを話し合う				
・初めに主張する人と 最後に主張する人 質問を受ける人を決める		自分の意見が聞き手に分かるように話の組み立てを工夫して発表する		
③自分たちの学級討論会への期待を持つ				
・自分の考えになかったことを挙げさせ いろいろな意見を聞き 面白さに気づく				
・自分の考えだけではなく 家族や身の回りの人の考えを取材することで いろいろな考えがあることを知る		自分の考えが客観的な事実により裏付けられるように取材しまとめることができる		
3 討論会の準備をする				
①CDの討論会で参考になった点や今までの経験から話し合う				
討論会での説得力のある発言ができるようにするために必要なことを話し合う 相手を説得できる話し方の工夫				
調べ方 自分の主張+具体的な事実・体験	取材（インタビュー・写真・ビデオ） アンケート インターネット 図書			
表し方 フリップ 数字 表 グラフ 実物		話す順序や資料の内容 提示の方法など聞き手にどのように受け取られるかを考えて表現方法を工夫することができる		
4 ミニ討論会を行う				
・2、3人のミニ討論会を開催する (1) (2)				
・自分の主張とは違うところを見つけ、よい点は取り入れる 文章構成 調べ方の工夫 表し方の工夫		相手の論の矛盾している点や足りない点を見つけ 質問する材料にすることができる		
・お互いのよさを認め 広め 次回の本番に生かすために各グループにもどって相談する				
5 学級討論会をする				
①学級討論会をする (1) (2)				
・討論会シートを用意し 聞き手 肯定側 否定側それぞれがどのような意見や質問をしたかをメモする		それぞれのグループが伝えたい点を抽出して一つの論にまとめることができる		
・相談の時間には 討論会シートを持ちより より相手を説得できないか グループで話し合う				
②討論会の進め方についてふり返る				
・相互に気がつかなかったよい考えを交換する				

教室の規範 (1) 具体的な事実を自分の主張に生かそうとする

(2) 自分の考えとの違いの良さを認める

## (5) 本単元における授業の実際と考察

### ① 討論会の準備や進め方について概略をつかみ討論会の準備をする

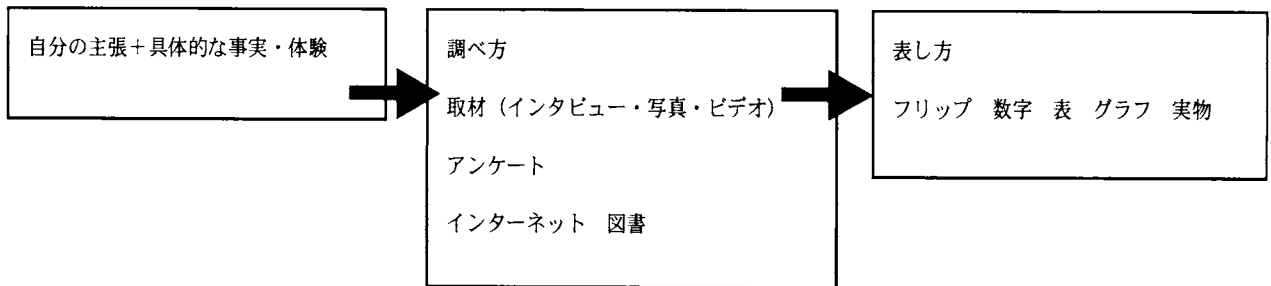
二つの意見を理解し 自分の考えと比べて感想を書くことができる

まず、教科書の本文を読み、討論会の概略をつかむ。その後、付録のCDを聞き、実際の討論会の雰囲気をつかむ。本教材では討論会シート例が用意されている。そこには討論会での「自分の考え」「相手の考え」「疑問点」「なるほど」の4つの観点とその内容の例が提示されている。そのシートを利用して教科書の「学級文庫に漫画を置くことに賛成か反対か。」というテーマの二つの意見を理解するとともに、自分はどちらの意見に賛成するかを考えた。

### ② CDの討論会で参考になった点や今までの経験から話し合う

討論会での説得力のある発言ができるようにするために必要なことをはっきりさせることができる

自分の言いたいことが相手に伝わったか、説得力のある話ができただか、相手の言い分を正確に聞き取れたか、それに対する反論を構築できたかということが各自の学習目標になる。特に本単元では、他者によりよく伝えられる手段として相手を説得する発言をすることをねらいとした。そこで、学級討論会に入る前に「説得力のある発言にするためにはどうすればいいのかわかるか。」をテーマに話し合い、明確にした。今まで漠然としていた「説得力のある発言」がどのような文章構成で、どんな調べ方で、どんなふうに表せばいいのかわかるようになった。これからの進め方も明らかになると同時に、自己・相互評価の観点にもなることが次のふりかえりからもわかる。



説得力のある発言にするための文章構成・調べ方・表し方

今日、学級討論会のために、話し合いをした。説得力のある話し方について話し合った。今までただ、説得力のある話し方、としか思ってなかったけれど、こういうふうに言葉にすると、どうすればいいのかわかるようになった。私はアンケートをしようと思った。そして表やグラフにまとめた。

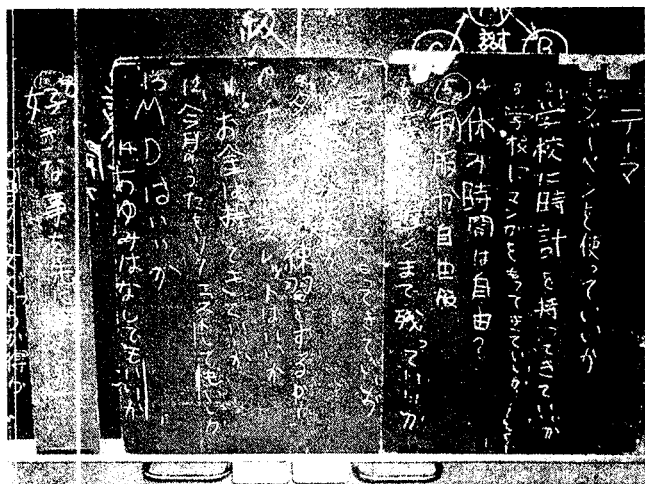
ただ、自分の賛成することを書けばいいと思っていた。でも、それでは、ほかの人をなっとくさせることはできない。今日話し合った手順で自分の意見を納得させてみたい！！でも、みんなで話し合うといろいろな意見が出るし、おもしろい。これから、今日話し合ったことができているかどうかをチェックしながら進めていけばいいこともわかった。

### ③ 学級討論会の準備をする

ふりかえりカードより

自分の考えが客観的な事象により裏付けられるように取材し まとめることができる

ここからは自分たちが決めたテーマの主張をする討論会に向けての準備である。子どもたちは自分たちの決めたテーマで議論したいという意欲でいっぱいである。たくさん候補が出されたが、最終的に二つのテーマに決まった。「制服・自由服、どちらがよいか」「男と女、どちらが得か」である。さらに自分の主張を補強するために取材活動を取り入れることにした。これは前時に話し合ったことから取材が必要だと言う意見が出されたからだ。その取材内容を生かすよう



写真① テーマ決めの時間の板書

な文章構成を考え、資料を用意し、発言の仕方を工夫して討論会へ向けての準備に取りかかった。それぞれ二つのテーマに分かれ、まず、自分の賛成する意見を選び、同じ意見同士でグループを作る。その中でどの証拠をどのような方法で集めてくるかを相談して分担した。一人一人が責任を持って自分の考えた証拠を集めてくることにした。以下が子ども達がグループ内で決めた文章構成の工夫、取材内容、資料の利用方法、発言の工夫である。

#### 文章構成の工夫

- ・自分の考えを述べる。その後に体験、具体例を述べる。
- ・取材内容を自分の主張を補強するように書く。そのために、なぜその内容が自分の主張を生かすのかをはっきりさせて書く。

#### 取材内容

制服・自由服、どちらがよいか 男と女、どちらが得か

- ・ 全校アンケート
- ・ 街頭インタビュー
- ・ 自由服の学校の子どもにアンケートとインタビュー
- ・ インターネットで見つけたアンケート結果  
制服を作る会社 他の学校
- ・ 外国の事例 ・ 全校アンケート
- ・ 街頭インタビュー
- ・ 子どもアンケートと大人（お母さん、お父さん、先生アンケート）
- ・ 施設調べ
- ・ サービスのちがいがい
- ・ 歴史的な事実

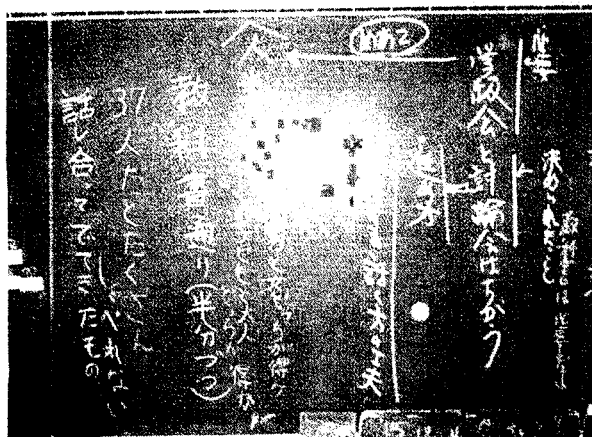
#### 資料の利用方法

- ・ フリップを使う
- ・ 実物（図書資料など）を拡大投影する。
- ・ アンケート結果をパソコンでまとめてプロジェクタで拡大投影する。

#### 発言の工夫

- ・ 発言する時の声の大きさ、話し方、資料提示のタイミング。

どうすれば相手を納得させるかでグループ内の話し合いは活発に進んだ。他の友達の意見を取り入れて進めていく姿が見られるようになった。時間の終わりにグループ内で交流タイムをとってお互いの進み具合や工夫を見せ合うことで、他の人の調べ方、まとめ方のよさを見つけられるようになっていった。



写真② 進め方の相談の板書

今日はインターネットでおもしろいホームページを見つけた。制服会社のアンケートで、制服が支持されている証拠になると思った。でも、グループの人から、ただこんなのありましたとかじゃ、どこに、とかいわれるから、はっきりわかるようにしたほうがいいと言われた。なるほど、と思った。

東山さん達はさっそくアンケートをしていた。全校に聞きたい。アンケートだから、やはり数が多い方が信用される。それをグラフにしてまとめていた。とても見やすいし、制服に賛成の人がたくさんいることが一目でわかる。

ふりかえりカードより

#### ④ ミニ討論会をおこなう

話す順序や資料の内容 提示の方法 など聞き手にどのように受け取られるかを考えて表現方法を工夫することができる

この時間の活動は、本番の学級討論会に入る前のリハーサルをかねている。どの子も自分の主張と資料を用意している。しかし、そのまま本番の討論会に入ると役割分担されてしまい、自分の用意した物が十分に活用されずに終わることも考えられる。そこで、自分の発言は責任持って自分で話す、相手の意図も責任をもって自分で聞く。進め方の確認をするために、司会も交代し合って経験する。ここで本番の討論会ではどのように修正したらよいかを一人一人が考え、グループにもどった時に行う、学級討論会に生かせるようにした。

○ミニ討論会の流れ。

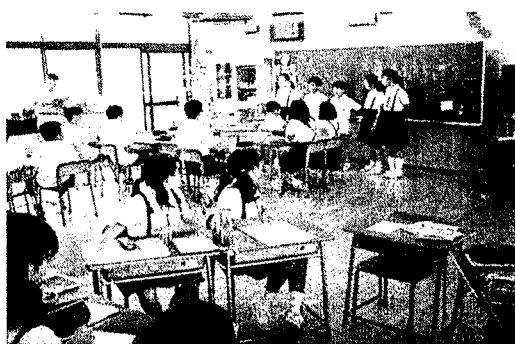
4グループに分かれ、テーマを確認する

- ①制服と自由服 どちらがいいか
- ②男と女 どっちが得か
- ・1回目のミニ討論会をする  
肯定グループ、否定グループ、討論を聞きまとめるグループがそれぞれ2、3人ずつでミニ討論会を行う
- ・テーマ①で討論する時、テーマ②のグループは聞き側にまわる
- ・聞く側はどちらの論も良いところを聞き取り、一つにまとめることができるようにした。討論終了後はお互いにアドバイスカードを書いて渡す。
- ・聞く側が主張する側にまわり2回目のミニ討論会をする  
討論会が終了した後、全員で集まりお互いの良いところや改善点を交流し合う。

集めてきた事例が主張にあっているか、提示の仕方が効果的か、の視点で話し合った。その話し合いの中で、子ども達からは次のような意見が出された。

- ・心理学の面から解説してるのは面白い。
- ・もっと広い範囲で取材してくることが必要じゃないのかな。
- ・全校アンケートは説得力があるね
- ・保護者インタビューはいいけど、もっとたくさんの人から聞かないと納得できないよ。
- ・インターネットからの引用は出典を明らかにしないと信用できないな。
- ・自分の主張を通すだけでなくその弱い所をまず認めると情報として信頼できる感じがする。
- ・もっとみんな「話し方」で説得することを考えた方がいい。身ぶり手ぶりを交えて話すとなるほどなと思えることがあったよ。

特に、「身ぶり、手ぶりを取り入れて話すことは効果があるのか」で意見が分かれた。ある子は「内容だけでなく、話し方にも説得する話し方があるはずだ」と主張したが、「それは関係ない。」とする



写真③ミニ討論会進行の確認



写真④最初の主張をする

意見が大多数だった。ここでもめたことを次の課題とし、「説得力のある話し方はあるのか。」について次時で話し合った。

結局、やはり話し方にも工夫するといいいことがミニ討論会での実例で出され、それならフリップや投影機を使った提示の仕方にも工夫するべきだと言う意見が出た。これもミニ討論会での実例を挙げてよい工夫を広めていった。

最後に、各グループがそれぞれに戻って、アドバイスカードをもとにミニ討論会の結果を報告し、ミニ討論会で学んだことをグループの話し合いに活かすようにした。

アドバイスカードは自分と反対の論の立場と、聞く側の立場からもらえる。また、同じ観点で自己評価し、自分はどうだったかも振り返る。



写真⑤ アドバイスカードを書く

評価観点は今まで自分たちで話し合っ  
て決めてきたことである。

説得力のある主張ができていましたか？				
◎ ○ △				
	文章構成	取材内容	提示の仕方	話し方
相手の人へ	◎	△	○	○
コメント				
円グラフで全員で16人というのは少し、少ないと思う。 (もう少し多くの人に聞いたらいいと思う。) 校長先生一人だけじゃ証拠にならないと思う。				

### ⑤ 学級討論会をする

話す順序や資料の内容、提示の方法など聞き手にどのように受け取られるかを考えて表現方法を工夫することができる

ここからの時間は、いよいよ本番の学級討論会である。ミニ討論会は教科書の討論会の流れにしたがって行った。どうしても相手に反論する時間がほしいという意見が多数だったので、学級討論会ではそれぞれの主張の後に反論する時間を設けた。

また、自分が支持する意見を述べるだけでなく、立場を変えて相手側に立って主張する場も設ける。そうすることで、自分の主張、相手側にたった主張、聞く・まとめる側の3つの立場を経験できるようにした。

三つの立場を経験することで、次のような学びが共有できたのではないかと考える。ミニ討論会での反省点をふまえてグループ内で役割分担をし、立論する。しかし、自分の立論だけではなく、相手の立場に立って立論することで、自分の本来の主張の弱かった点、相手のよさが見えてきた。また、聞く側を経験することで、言いたいことが相手に伝わっているか、説得力のある話ができているか、相手の言い分を正確に聞き取れているか、それに対する反論を構築できているかがよくわかる。

説得力のある主張ができていましたか？				
◎ ○ △				
	文章構成	取材内容	提示の仕方	話し方
相手の人へ	○	○	◎	◎
コメント				
もっと資料からわかることを言えばよかったと思う。男のどんなところがいいのかを、具体例を出せばよかった。理由として良いものをもっと探せばよかった。				

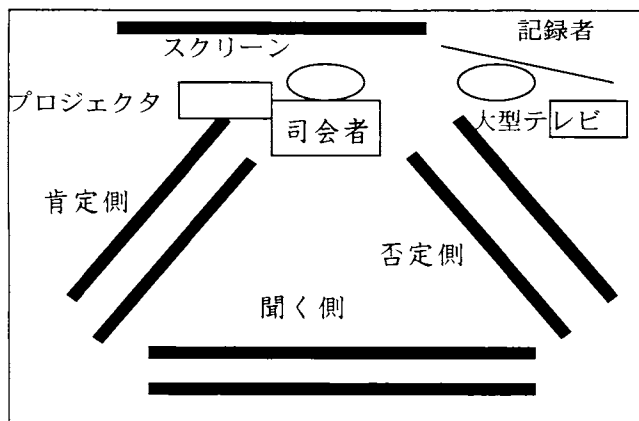
ミニ討論会でのアドバイスカード

説得力のある主張ができていましたか？ 相手のいいところを見つけられましたか					
◎ ○ △					
	文章構成	取材内容	提示の仕方	話し方	見つけ方
自分はどうかだった	○	◎	○	◎	◎
コメント					
自分達のグループは、グラフを書いて分かりやすくしました。どっちが得か、の結論や、実際にあったことも話しました。相手のいいところは参観日に親の人に聞いていたことです。自分が体験したこともつけ加えてよかった。					

説得力のある主張ができていましたか？ 相手のいいところを見つけられましたか					
◎ ○ △					
	文章構成	取材内容	提示の仕方	話し方	見つけ方
自分はどうかだった	○	◎	◎	△	○
コメント					
取材の仕方や、提示の仕方は工夫したのでよかったし、聞く人もよかったといっていたので、本番でも使ったらいいと思いました。けれど、話し方では、少し説得力がさがったような気がしたので、話し方をもっと工夫したらいいと思った。					

ミニ討論会での自己評価カード





写真⑥フリップを使って効果的な提示を試みる

それが、自己評価で自分の主張をふり返った時に、客観的に評価することにつながった。

また、聞き・まとめる側を経験することで、次のことを学ぶこともできた。

- 情報は正確に伝えなければ危険であること。
- ・一部の情報だけを取り上げて、さもそれが全体の意見であるように話す。
- ・自分の思い込みで資料を使う。
- ・インターネットの資料をうのみにする。
- ・歴史認識として間違った判断をしていること

このような主張が行われる場面があった時に取り上げて考える場を設けた。さらに聞く側に立つことで、冷静にそれはおかしい、ということ判断する場を持つことができた。

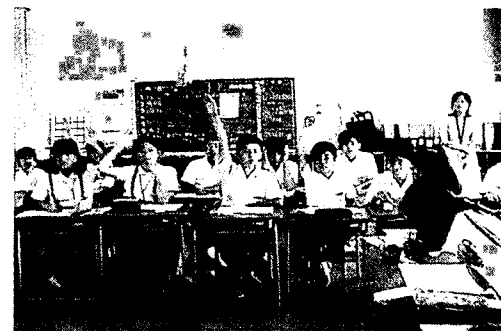
そして、このような危険をおかさないために

- ・資料の出典を明らかにする。
- ・いくつかの資料を合わせて事実を確認する。
- ・自分の思い込みかどうかを常に自問自答する。
- ・歴史的な事実は正確に伝える。



写真⑦相談タイムに作戦の練り直し

説得力のある主張ができていましたか？				
◎ ○ △				
	文章構成	取材内容	提示の仕方	話し方
相手の人へ	○	△	◎	○
コメント	男がとくといても、その人や、場合によってちがうことを言っても証拠にならない。全員が納得できる証拠をもってこない・・・ケースバイケースのは使えない。パソコンを使ったのは良かったと思う。			



写真⑧聞く側は二つのグループに対して質問する

説得力のある主張ができていましたか？				
◎ ○ △				
	文章構成	取材内容	提示の仕方	話し方
相手の人へ	◎	○	○	◎
コメント	制服グループは情報量が多く、どこから調べてきたかもはっきりしている。とちゅうで思い込みで話をしていたようだが、自分達できづいて、今のはなしです、と言ったのはよかった。			



写真⑨記録も自分達で

学級討論会でのアドバイスカード

説得力のある主張ができていましたか？ 相手のいいところを見つけられましたか ◎ ○ △					
	文章構成	取材内容	提示の仕方	話し方	見つけ方
自分はどうかだった	◎	◎	○	○	◎
コメント なるほど、と言ってくれたのがうれしかった。わたしの言いたいことは伝わった。相手の反論の材料にもつかわれていた。					

説得力のある主張ができていましたか？ 相手のいいところを見つけられましたか ◎ ○ △					
	文章構成	取材内容	提示の仕方	話し方	見つけ方
自分はどうかだった	△	◎	○	△	○
コメント 事実と体験がどうもごっちゃになって聞こえたみたいだ。自分は区別して話したつもりだったのだけれど、同じに聞こえたらしい。体験ですが、と前置きすればよかったかな					

学級討論会での自己評価カード

というようなことを話し合った。

提示の仕方としてフリップ、OHC、プロジェクト、大型テレビを利用することで、内容をわかりやすく伝える方法を学んだ。

資料を目に見える形にして共有し合いながら討論会を進めることができるからである。また、インタビュー内容をビデオで撮影したり、録音してきた音声を聞かせることは相手を引きつける。メディアを使用することで、より自分の主張を補強することができることが実感できた。

## (6) 単元を終えて

相手を説得させるためには自分の思い込みだけで話をしてはいけない、ということがクラスの合い言葉になった。そのためには取材の大切さ、提示の仕方、文章構成に気を配らなくてはならないことも学んだ。また、肯定、否定、聞く側の三つの立場を経験することで、相

手の言いたいことを理解しよう、理解するまで聞こうとする雰囲気がクラス全体に広まっていった。

それを国語科だけではなく他教科や総合でも意識化させることでより効果がある。例えば、同時期に行った社会科の「道長が出世した条件は何か」というテーマでの調べ学習とその発表会。総合の「ビフォー・アフター」をテーマにしたスライドショーやビデオ番組を使ったプレゼンでは、調べたことを自分の主張に生かす、自分の考えとの違いのよさを認めようとする態度が見られるようになった。

## (7) 今後の課題

相手の立場に立って考える、よさを認める。そのためには自分の意見をしっかり伝える必要がある。学習を通して学んだこれらのことを、教科のねらいを達成するための土台であると考えて大切にしていきたい。もちろん、日常生活の場においてもそうしたい。また、その土台になるものを情報活用能力と考えるならば、国語科の時間を核にして他教科や総合の時間でも共通に学ばれる能力があるはずである。それらを洗い出し、教科横断的に、有機的に関係づけられた単元設計をしていくことが大切であると考えている。